

2017年2月実績概要（メモ）

（2017. 3. 16）

主要石化製品の生産は、日数減から全ての製品で前月を下回るもほぼ半数の製品が定修規模差等から前年を上回る。

1. 生産動向

イ) エチレン 514,800トン

前月比 ▲12.8% (▲75,300トン)

前年同月比 ▲4.2% (▲22,500トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲9.7%	▲3.4%
定修要因等	-	+0.3%
能力増減	-	▲3.4%
稼働率変動	▲3.1%	+2.3%
生産増減率	▲12.8%	▲4.2%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月100.0%→当月96.6% ←前年同月94.5%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、主に日数減からLD、HD、PP、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EG、SBR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの17品目すべてがマイナスとなった。

前年比では、前年は閏年であったが、定修規模差や稼働率要因からLD、MMAモノマー、AN、SBR、BRなどの8品目でプラス。PS、塩ビ樹脂、ベンゼン、キシレンなどの9品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数の減少や稼働率要因等からLD、HD、PP、PSともにマイナスとなった。

前年比では、日数減があったもののLD、HDでは定修規模差、稼働率要因からプラス。PPは前年並み、PSは稼働率要因からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、年始休暇が短かったこともあり営業日数ベースでの日数差は少なくLD、HDでは僅かながらのマイナス。これに対してPPでは射出成形分野、PSは包装分野を中心に出荷が増加しプラスとなった。

前年比では、LD、HD、PP、PSの4樹脂揃ってのプラスとなった。特にPPでは射出成形分野と押出成形分野での出荷が伸長した。また、PSでは前年の出荷水準がやや落ち込んだこともあり全分野での出荷が増加し伸び率も高めとなった。

ハ) 輸出

輸出は、前月の輸出量が国内向けの出荷増加に伴い低めであったこともあり、当月はLD、PP、PSでプラス。当月に生産がやや減少したHDのみがマイナスとなった。前年比では、HD、PSはプラスとなったが、LD、PPではマイナスが続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対してHD、PP、PSで減少、LDのみが増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HDはやや上昇、PPは前月並み、PSは低下した。在庫水準としてはLD、HD、PPでほぼ適正、PSはタイトとなった。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		1月末	2月末
LD	+4,100	2.6	2.7
HD	▲800	2.4	2.5
PP	▲2,700	2.4	2.4
PS	▲2,300	1.5	1.2

以上